



世界で2個体目のタカハシア・エウレカ（白亜紀アンモナイト）、 10/16（土）から展示

札幌のアンモナイト研究家 伊豆倉正隆氏が当館に寄贈した貴重な標本を展示します。



タカハシア・エウレカ

寄贈 伊豆倉正隆

1 cm

タカハシア・エウレカ (*Takahashia eureka*) は北海道三笠市のアンモナイト研究家 高橋武美氏（故人）によって発見され、1984年に九州大学名誉教授 松本達郎博士（故人）によって新属新種であることが公表されたアンモナイトです。これまでに世界中で1個体しか見つかっていませんでした。（ちなみに第一標本は九州大学理学部に収蔵されていて、現在まで一般公開されていません。）

近年、伊豆倉氏が2個体目の標本を穂別地域で発見しました。これを機に国立科学博物館研究主幹 重田康成博士らが、その標本などを用いてタカハシアの系統進化に関する研究を行いました。その結果、分類・系統的位置づけについての考えが混乱していたタカハシアがリトセラス科に属することが明らかになり、成果を9/30発行の日本古生物学会誌Paleontological Researchに発表しました*。

他にも、伊豆倉正隆氏・阿部利春氏（穂別在住）が寄贈した穂別産ゴードリセラス・イズミエンゼ (*Gaudryceras izumiense*) の標本も展示をします。このアンモナイトは、大阪の和泉山地で多産しますが、重田博士らの研究グループによって穂別地域やアラスカ南部でも産出することがわかりました。地層の時代を決める重要なアンモナイトとして同じ学術誌に報告されました**。

* Shigeta, Y., Hoffmann, R. and Izukura, M., 2010: Systematic position and origin of the Cretaceous ammonoid genus *Takahashia*. *Paleontological Research*, vol. 14, p.196-201

** Shigeta, Y., Tanabe, K. and Izukura, M., 2010: *Gaudryceras izumiense* Matsumoto and Morozumi, a Maastrichtian ammonoid from Hokkaido and Alaska and its biostratigraphic implications. *Paleontological Research*, vol. 14, p.202-211



ゴードリセラス・イズミエンゼ

寄贈 伊豆倉正隆・阿部利春

5 cm

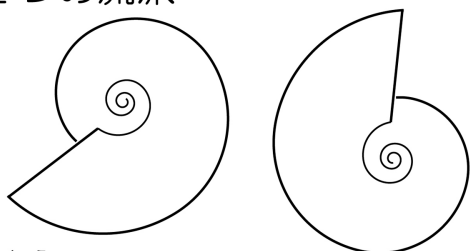
当館による調査・研究の結果、穂別地域からは新種と思われるアンモナイトや二枚貝類をはじめ、学術的価値が高い化石が数多く存在することが明らかになってきました。現在、世界中の研究者と共同で研究を行っております。研究の成果がまとまり次第、学会等で発表し、順次展示に加えていきますので、ご期待ください。

最後に、貴重な標本を寄贈していただいた伊豆倉正隆氏・阿部利春氏に深く感謝します。

（普及員 西村）

アンモナイトの描き方3 アンモナイトの向き②

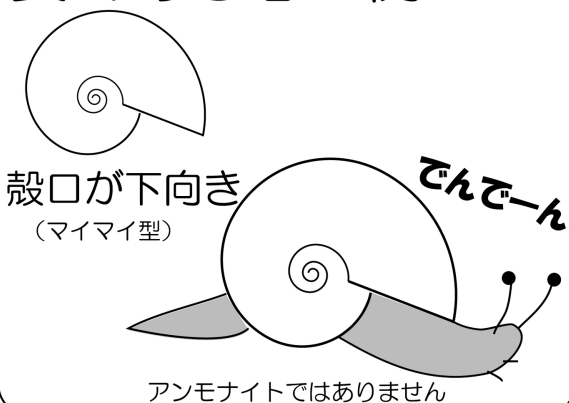
アンモナイトの描き方 2つの流派



かくこう
殻口が斜め下
(軟体部を意識したもの。
前回紹介)

殻口が上
(伝統的な描き方)

良くある悪い例



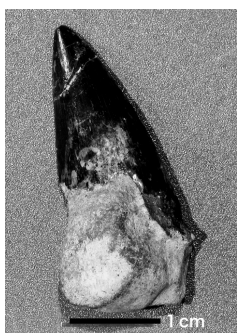
アンモナイトを描く向きは2つの方向があります。一つは、前回紹介した軟体部を意識した描き方である「殻口を斜め下」に向けて描くものです。

もう一つは、「殻口を上」にして描くものです。これは、アンモナイトの伝統的な描き方で、100年ほど前には、ほとんどの論文中において、この向きでアンモナイトが描かれています。

特別な事情が無い限り、専門家は、アンモナイトを描くときだけでなく、アンモナイトを撮影する際や展示する際において、「殻口が斜め下」か「殻口が上」のどちらかの向きに統一します。

残念ながら、一部の図版や展示においては、これらの約束事が守られていないことがあります。そのような写真や展示に良く見られる悪い例では、殻口を下向きにしているものも多く見られます。残念ながら、その姿勢はマイマイ（カタツムリ）のもので、アンモナイトのものではありません。
(普及員 西村)

学名 散歩 6 「ムーズ川のトカゲ (モササウルス)」



モササウルス・ホベツ
エンシス
(模式標本HMG-12) の歯

モササウルスという名前は、1780年に最初の化石が発見されたオランダ・マストリヒト市のムーズ川（フランス語名。オランダ語名はマース川）に由来します。1982年に穂別で発見された標本は新種とわかり、モササウルス・ホベツエンシス *Mosasaurus hobetsuensis* と名付けられました。

Mosasaurus = Mosa (ムーズMeuse川の<ラテン語>)

+ saurus (トカゲ<ギリシア語>)

hobetsuensis = hobetsu (穂別の) + -ensis (地名の後に付ける語)

つまりモササウルス・ホベツエンシスとは「穂別のモササウルス」という意味です。
(学芸員 桜井)

むかわの化石や生き物<穂別の脊椎動物化石>

Mosasaurus hobetsuensis Suzuki, 1985

モササウルス・ホベツエンシス



HMG-12 モササウルス・ホベツエンシス (右前肢)

HMG-12。モササウルス・ホベツエンシスの模式標本。1982年に鈴木茂氏（当館学芸員・当時）によって発見され、1985年に同氏によって新種として学術誌で発表された。分離した歯の他に、右前肢、胴椎や肋骨などを含む。右前肢は末端部を欠くが本来の位置関係は保たれており、前肢の要素がこれだけまをもって産出した例は国内では他に例がない（近年、和歌山県で後肢がまをもって産出した）。(学芸員 桜井)

2010年 10月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

10/4, 18, 25は通常の休館日
10/12, 13は祝日の振替です